

2022年度 関東学生水球リーグ戦水球【戦評】

会場：日本体育大学

【2022/5/28】

この試合のプレー集計

1部																	
慶応義塾大学	13	[<table border="0"> <tr><td>1</td><td>—</td><td>1</td></tr> <tr><td>5</td><td>—</td><td>3</td></tr> <tr><td>4</td><td>—</td><td>3</td></tr> <tr><td>3</td><td>—</td><td>1</td></tr> </table>	1	—	1	5	—	3	4	—	3	3	—	1]	8 成蹊大学
1	—	1															
5	—	3															
4	—	3															
3	—	1															
			PSO														
			佐藤 國寛														
			石谷 啓輔														

慶 応 義 塾 大 学	39	SH数	28	成 蹊 大 学
	15	速攻数	10	
	16	ST・SB	7	
	7	SH・P誘発アシスト	6	
	50%	GK阻止率	48%	
	5	EX反則数	12	

ST・SB: ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

慶大主将・田中が負傷欠場。センター位置で奮闘していただけに、その穴を誰が埋める形になるのか。対する成蹊は、エース⑪篠崎の踏ん張りを周囲がどこまでカバーできるか。

1P

速攻を繰り出す機会は圧倒的に慶大。そこからの展開で、退水を奪うもシュートが決まらない展開が続いた。田中不在の影響も感じたが、成蹊側のミス(コントラ反則)から慶大が先制。しかし成蹊も慶大のミスを突いて、③松島がセンターから返して同点で第1ピリオド終了。

2P

センターボールを取った慶大は相手DFの下がりを見抜く形で③富永が決めると、やや余裕がでてきたのか、焦るような攻撃は減り、攻撃時ミスも少なくなったが、DFは外周マークが甘く、インサイドでの退水につながるなど、なかなか安定しない。それを成蹊側に突かれて、なかなか点差が広がらなかったが、ピリオド終盤に、成蹊側の得点直後、成蹊側の下がりすぎDFをしっかりついて⑥井上が決めて慶大6-4成蹊で前半を終えた。

3P

このピリオドは、慶大③富永、⑩高橋の動きがよく、また、相手ボールにからむプレーで⑤矢作⑦日高が起点を作るなど、安定した試合運びが目立った。成蹊側はボール接点やプレッシャーを受けながらのパスミスでなかなかリズムが作れなかったが、やはりエース⑪篠崎の踏ん張りで何とか食らいつく展開。慶大10-7成蹊の3点差で最終ピリオドへ。

4P

このゲームでは慶大③富永のリズムが良く、ここでもセンターボールからのセットでこのゲーム3点目をマーク。成蹊側は今リーグ戦、スタート直後のセットDFでのプレッシャーの掛け方が不十分で失点するケースが多く、ベンチ指示と選手の動きとがなかなかマッチしない状態が続いていた。それでも成蹊⑪篠崎は必死で食らいついて6mシュートを決めるなど奮戦したが、相変わらずボール接点で慶大に競り負けて、DFが後手になる場面が続いた。慶大もそうしたチャンスを自らコントラ反則で失ったり、シュートが決まらなかったりで、終始慶大ペースではあったものの、慶大13-8成蹊という点差で試合終了。双方やや消化不良気味で1次リーグを終えて、明日から順位決定戦へ。